

記載上の注意事項

1. 推薦書

書式は自由です。但し、推薦者が提出先に直接郵送してください。

2. 履歴書（様式1）

- 1) 学歴欄には高校卒業以降の学歴を記載してください。
- 2) 免許欄には医師免許等を記載してください。
- 3) 学位欄には授与された大学名も記載してください。
- 4) 職歴欄には所属、職名、海外出張、留学(外国での身分)、教育歴等を記載してください。
- 5) その他の欄には主な所属学会名と役職名、学会認定医(登録番号・取得日)・専門医・指導医資格、社会における活動等(医師会、公的機関の委員、ボランティア)を記載してください。

3. 業績目録

次の順に記載してください。

1) 原著論文

研究に新規性があり、目的、対象・方法、結果、結論が明瞭に示され、査読制度のある学術研究誌に発表した論文。短報(学術研究誌に発表した Short Communications、Letters)を含みます。

- ・以下の区分ごとに番号を付して出版年月の古いものから記載してください。
- ・Journal Citation Report 最新版のインパクトファクター(IF)を付記してください。
- ・著者中の応募者の氏名・雑誌名・インパクトファクターを、アンダーラインまたは太字体で強調してください。(末尾の記載例をご参照ください。)
- ・印刷中の論文については(印刷中または in press)とし、証明書を付けてください。

(1) 自著論文

① 単著論文

著者名. 題名. 誌名 西暦年; 巻: 初頁~終頁. [IF]

② 筆頭者として発表した共著論文

著者名. 題名. 誌名 西暦年; 巻: 初頁~終頁. [IF]

(2) 共著論文

共著者名. 題名. 誌名 西暦年; 巻: 初頁~終頁. [IF]

2) 症例報告

学術研究誌に発表した症例報告で、発表抄録は含みます。

(記載要領は原著論文の場合と同じ)

3) 学会プロシーディングス

原著論文に準じたもののみとし、発表抄録は含みません。

(記載要領は原著論文の場合と同じ)

4) 総説(自著)

特定の研究課題に関して十分な文献的考察を含み、その分野の学術的動向を展望したもので、学術研究誌に発表したものです。

(1) 単著総説

(2) 筆頭者として発表した共著総説

(記載要領は原著論文の場合と同じ)

5) 著書

学術研究図書の一冊全部を著したもの、および分担執筆したものです。

図書の編集は含めますが、監修は対象としません。

(1) 自著

著者名. 書名. 版次. 出版地: 出版社、西暦年: 初頁~終頁.

(2) 分担執筆

著者名. 題名 (一編あるいは一章の論題). 編者名. 編. 書名:
副題. 出版地: 出版社、西暦年: 初頁~終頁.

- 6) 報告書
科学研究費補助金の報告書、班研究報告書など学内外の報告書です。
(記載要領は原著論文の場合と同じ)
- 7) その他の出版物
学術研究誌に発表した解説論文(エディトリアルなど)、患者・一般人向けに執筆した解説論文、新聞などの掲載記事です。
(記載要領は原著論文の場合と同じ)
- 8) 学会発表
学術研究集会およびそれに準じた学会における発表で、受賞講演、基調講演、特別講演、宿題報告、シンポジウム等代表的な発表 10 題以内に限ります。
(学術研究誌あるいは学会抄録集などに掲載されている場合は附記する。)
演者名：題名. 第〇〇回〇〇学会. 場所. 西暦年月
- 9) 産業財産権
特許・実用新案権、意匠権の出願・取得状況です。

4. 研究業績の概要

代表的な研究の概要について A 4 サイズ 1 枚 1,800 字以内に記載してください。

5. 業績集計表 (様式 2)

別紙用紙に業績目録に記載した I. 原著論文、II. 総説、III. 著書等の件数を年度別に記載してください。なお、2012 年までの業績件数は一括して記載してください。

6. 論文別刷

主な研究論文 10 編 (各 1 部) を添えてください。

7. 教育業績評価表 (様式 3)

別紙用紙に具体的に記載してください。

8. 研究費採択状況一覧表 (様式 4)

科学研究費及びその他の助成金について、種目、課題名、代表・分担の別、交付金額を年度順に記載してください。必要に応じて用紙を追加してください。

9. 教育に対する抱負

現在までの実績と今後の抱負について、A 4 サイズ 1 枚 1,800 字以内に記載してください。

10. 研究に対する抱負

(9. 教育に対する抱負に準じてください。)

11. 講座運営に対する抱負

(9. 教育に対する抱負に準じてください。)

12. 申告書

13. 業績目録の記載例

【英文単著の場合】

Temma U. Coronary reperfusion with the cell shrinkage cocktail-eluting stent. Engl J Med 2020; 348: 2699-3003. [IF 53.5]

【英文共著の場合】

Temma U, Ohme T, Ochanomizu H. A humanoid microrobot applicable to self-directing intravascular therapy. Nature Science 2020; 523: 1543-7. [IF 36.1]

【和文論文の場合】

敷島健一，伴俊作，天馬午太郎. 嚥下式自己制御マイクロロボットによる逆流性食道炎の迅速診断. いがくのあゆみ 2020; 248: 2138-41.

*様式1～4につきましてはフォーマットファイルをお送りいたしますので、ご希望の場合は下記までご連絡ください。 メールアドレス gakujibu@jikei.ac.jp 以上